

## 2020年度 学校関係者評価委員会

日時	2021年2月25日(木) 14:00~16:00	場所	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 トラベルサロンより ZOOM にて実施	進行	原田
				議事	小倉
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原田 正隆 (千葉市民活動支援センター センター長)</li> <li>・横山 隆 (株式会社千葉京成ホテル 京成ホテルミラマーレ 総支配人/販売促進統括部長)</li> <li>・山口 晋司 (千葉都市モノレール株式会社 総務部 総合調整担当部長)</li> <li>・小亀 さおり (地域)</li> <li>・岩崎 正佳 (両総観光株式会社 営業課課長)</li> <li>・齋藤 信也 (ANA スカイビルサービス株式会社 接客サービス事業本部 旅客サービス事業部 成田ラウンジ課課長)</li> </ul> <p>&lt;学校職員&gt; *オブザーバー参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・矢口 博士 (校長/本部長)</li> <li>・竹ノ谷 卓也 (副本部長)</li> <li>・久保木 達也 (国際室事業本部副部長)</li> <li>・檜崎 さやか (学務室室長)</li> </ul>				
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2019年度重点方針の確認</li> <li>2. 2019年度自己評価</li> </ol>				
議事録	<p>【配布資料】 2019年度自己点検評価表</p> <p>新任委員2名のご紹介の後、進行原田氏が委員会を開会した。 学校より2019年度の重点方針の確認及び活動報告、本年度に定めた重点的な取り組みが必要な目標を説明。</p> <p>1. 2019年度重点方針の確認、及び活動報告 学校より以下の重点方針について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 安定した学生数の確保：経営的な観点及び授業活性のためにも不可欠</li> <li>(2) 企業と連携した教育課程編成と学修成果の向上：受験生に選ばれる授業を展開する</li> <li>(3) 学生満足度の向上：行事等も含め、入学して良かったと思ってもらえるように努力する</li> <li>(4) 学生の希望に合わせた進路決定率の向上：学生ニーズを捉えた就職先の斡旋</li> <li>(5) 退学者の低減：家庭と連携し、今後も最小限に抑えていく</li> <li>(6) 組織の円滑な運営と職場環境改善：他部署ともチームワークのとれた組織の円滑な運営</li> </ol> <p>・19年度の取り組みの実績として中村学園5校で行っている学生アンケートによる学園生活満足度と授業満足度についての説明。学生に実施するアンケートは次年度の目標設定の参考資料となっている。</p> <p>2. 2019年度自己評価 学 校：「専修学校における学校評価ガイドライン」を基準として、自己評価を行った。本日頂戴する客観的な学校運営に関するご意見を計画的に取り入れ、改善を図っていきたい。評価項目については、他と重複する部分があったため、今年度13項目から11項目に変更している。</p> <p>原田氏：各項目評価が悪かった点、学校として特筆すべき点の説明を行った後、各委員より質問・意見といった形式で進めていく。</p> <p>(1) 教育理念・目標について 2：教育目標、育成人材像は、専門分野に関連する業界等の人材ニーズに向けて方向づけられているか。 →学校で設定している教育目標を各学科に落とし込めていないのが現状である。定められた共通の理念や方針を踏まえて各学科の教育目標を掲げる必要がある。【評価4→3】 4：理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか。 →一部の学科は企業や行政と連携し、企画提案や実習をさせていただいているが、まだ実施できていない学</p>				

科があるため、今後は実施に向けて計画をたてていく。また、業界で必要なスキルは時代とともに変化していくため、時代に合わせたニーズをしっかりとらえ教育に落とし込む必要がある。【評価 4→3】

#### 学校関係者からの質問・意見

4：理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか。

小亀氏：今後の改善方策の中で「行政機関や企業と連携した実践教育の強化、機会創出」とある。行政と連携が可能な資源はたくさんあるがこれらをどのように取り入れ、感性豊かな学生たちが、それをどのように発信していくかを考えていく必要がある。

#### (2) 学校運営について

4：意思決定プロセスは整備され機能しているか。

→学内で必要な書類については、検印欄を設け各担当部署にて確認を行っている。また、多様な意見を取り入れられるように個人の提案も大切に、所定の手順を経て最終決裁される。カリキュラムの見直しについては、各学科リーダーを中心に教育課程編成会議を開催し、学校全体で教育課程を作成している。【評価 4→3】

8：情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

→学生管理システムについては情報管理室と学校で意見交換が行われ改良がされた。今回は出欠席や成績の処理に関する改良は行われていないが引き続き検討する予定である。【評価 2→3】

#### 学校関係者からの質問・意見

特になし

#### (3) 教育活動について

9：成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。

→評価基準は学科や担当教員間で統一できていない。成績評価の基本となる、客観性、妥当性、信頼性、公平性が徹底されていない場合があるため、学科や担当教員で共通認識をもち評価を行えるように引き続き検討する。【評価 3→3】

12：関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・業務含む）を確保するなど取組が行われているか。

→勤続年数が長い教員は最新現場の知識や技術を学んでいかなければならない。教員の学ぶ機会や新たな知識をもった教員の確保を計画的に進めていく。【評価 3→3】

13：関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか。

→各教員が「新しいものを取り入れ、学生に伝えたい」という関心をもち、自発的に行動を起こすことが必要である。学校が研修の啓蒙等についても積極的にやっていく。【評価 2→2】

#### 学校関係者からの質問・意見

山口氏：評価が厳しくつけられている。4→3 になっている項目が 4 つある。何故そのように評価したのか。  
学 校：これまでシラバスでは、主に学ぶ内容に重点を示しているが、成績評価に関しては各教科担当に委ねていた。学校が指標を示めさなければならないと考えているので、客観性、妥当性、信頼性、公平性を保った評価を行えるように検討していきたい。

横山氏：評価の見方について再度確認したい。

学 校：4 段階評価。3 が平均、2 は不足している項目ととらえていただきたい。

原田氏：専任講師と非常勤講師の割合はどのくらいか。

学 校：常勤の教員（実際に授業を担当している者）は約 20 名、非常勤講師は 80～100 名である

岩崎氏：職業実践専門課程に認定されていない学科はどこか

学 校：観光科と語学集中科がまだ認定されていない。観光科については 2020 年度に申請を済ませた。語学集中科については、申請条件の一つである、「企業と連携している科目」の設定が難しいため、申請に至っていない。

(4) 学修成果について

5：教育及び実習等を委託する場合、その目的、要望事項及びそれに対する評価項目等の依頼を明確にしているか。

→到達目標の設定は企業や講師と連携し、評価項目の見直しを含めて明確にする必要がある。

【評価 4→3】

学校関係者からの質問・意見

特になし

(5) 学生支援について

5：学生に対する経済的な支援体制が整備されているか。

→2020年度より「高等教育の修学支援新制度」が開始された。対象機関の申請を行い、支援対象校となったため、今後も十分に周知を行う。当校の学生の現状としては、経済状況が厳しい学生が多く、貸与奨学金をうけている。【評価 4→4】

8：保護者との連携体制を構築しているか。

→年に1回学校情報を掲載した「ITHB PRESS」を発行し、学園生活の様子を写真等や教員からのコメントを通して保護者に伝えている。また、海外研修や就職活動に関する保護者説明会などを開催し、情報提供を行っている。【評価 4→4】

学校関係者からの質問・意見

小亀氏：学校の様子などを伝える冊子等は保護者が学校生活を知る機会となってよい。

6.学生の健康管理を担う組織体制はあるか。

横山氏：安全面や衛生面に配慮した学校運営を行ってほしい。

学 校：現在学内では感染症対策として、定期的な換気、消毒、検温、三密を回避することを学生、教員間で徹底している。2021年度に向けて企業の観点から学校で購入するべき物や取り入れられることがあれば教えていただきたい。

齋藤氏：新しい物品を購入するのではなく、うがい、手洗い、マスク着用、消毒の徹底することで十分に感染を防ぐ効果があると考えている。

(6) 教育環境について

3：学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。【評価 4→3】

4：防災に対する体制を整備し、適切に運用しているか。【評価 4→3】

5：学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。【評価 3→2】

→2019年度は自然災害の発生が多かった。災害時の連絡の体制、研修旅行等の指針の再考、学内における規則などを設ける必要がある。防災に関する活動については、非常時訓練を年に1回実施しているが、いつ災害が起きても冷静に行動できるように準備する。また、学内においては安全管理体制としては、残念ながら学内で盗難事件が発生してしまった。学校側の管理体制を再度見直し、定期的に学生への注意喚起を徹底する。

学校関係者からの質問・意見

原田氏：障害をもっている学生はいるか。

学 校：身体障害者の在籍は無い。ほとんどの学科の科目にバリアフリーを学ぶ授業やサービス介助士を取得する授業を設定している。

原田氏：身近に様々な障害を持っている方がいる。障害の有無に関わらず、お客様にサービスを提供する側になることができる、という特徴をうちだしてもよいのではないかと。

(7) 学生の受け入れ募集について

3：学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。

→教育成果は検定の合格率などになりがちであるが、それ以外に指標となりえるものは何かを考えていく必要がある。また、学んできたことが成果としてどのように表れるか見直すことで学科の特性を見出す。

【評価 4→3】

4：入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。

→特待生の選考については学科ごとに面接官 2 名おき候補者をあげる。その面接評価を選考会議内で共有し、最終決定を行っている。【評価 4→3】

学校関係者からの質問・意見

特になし

#### (8) 財務について

4：私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施しているか。【評価 4→4】

5：私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。【評価 3→4】

→座学授業が多い為、運営効率は良く経営基盤が安定している。中村学園の法人監査については外部に依頼し、ホームページで情報公開を行っている。

学校関係者からの質問・意見

特になし

#### (9) 法令等の遵守について

3：自己評価の実施体制を整備し、問題点の改善を行っているか。【評価 3→3】

→外部の方から定期的に、客観的な御意見をいただき、整備をすすめている。

4：自己評価結果を公表しているか。

→公開している。次年度は自己評価が 100 点の条件や項目を具体的にしたい。【評価 4→4】

学校関係者からの質問・意見

特になし

#### (10) 社会貢献・地域貢献について

3：学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。

→2019 年度は学生がパラスポーツボランティアに参加し、活動を行う前の研修を 2 回受講している。  
(事前研修の会場として無償で提供)【評価 2→3】

学校関係者からの質問・意見

学 校：地域貢献、社会貢献として企業で行っていることを伺いたい。

山口氏：社会貢献、地域貢献について評価が低いが、評価が 1 つ上がっていることから学校全体の努力が見えた。地域における学校としてできることを地道に行っていくことで学校のイメージアップにつながる。

原田氏：場所を必要としている地域の団体に対して、休み期間中に会議室の貸し出しを行ってはどうか。ボランティア団体の課題として、ボランティアの力を必要としている側が魅力を発信できていないことがあげられる。若年層にむけてボランティア活動を伝えるために、動画を撮るなどして伝える工夫をし、大学や専門学校に広めたるための連携をしていきたい。

小亀氏：「ボランティア」とは何かを考えている学生が多くいるのではないか。ボランティアを知り、ごみを拾うなど小さなことが社会貢献につながっていることを知ってもらいたい。

#### (11) 国際交流について

1：留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行っているか。

→国際部として 3 年目を迎える。定員を 120 名から 160 名に増員した。また、新たな部署として広報室を設

置した。【評価 4→4】

2：留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。

→2019年度も適正校として認められた。適切な在籍管理を行っているが、より正確に実施するために出願書類や面談を増やして対応している。【評価 4→4】

3：留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。

→学務室を設置し、学生情報を把握し円滑な学生対応を行っている。今後も留学生の文化と日本の文化の異なる部分を留学生に理解してもらい指導を継続していく。【評価 4→3】

4：学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

→スピーチコンテストや学生自身が課題を見つけて発表する卒業研究プレゼンなどを行い、企業の方や非常勤講師を招き開催している。【評価 3→3】

#### 学校関係者からの質問・意見

小亀氏：ホスピタリティマインドをもった学生を育てることを目標とされている。おもてなしの感覚をもった留学生はどの業界でも通用する。お客様を観察し、その方のために尽くすことは日本の技術力だといえる。観光業界だけでなく、幅広い分野での活躍を期待する。

各委員より一言頂戴し、進行原田氏が委員会を閉会した

以上